

平成28年度報告書

- ・事業報告及び附属明細書
- ・貸借対照表
- ・損益計算書(正味財産増減計算書)
- ・損益計算書(正味財産増減計算書)内訳表
- ・財務諸表に対する注記
- ・貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の附属明細書
- ・予算対比損益計算書(正味財産増減計算書)
(参考資料)
- ・財産目録(参考資料)
- ・監査報告

平成28年度 事業報告

《 概 況 》

平成28年度、予防医学振興事業、福祉事業、音楽文化振興事業の三つの事業分野で、引き続き多岐にわたる事業を実施しました。

予防医学振興事業においては、住友生命総合健診システム(人間ドック)において、平成28年度は総合健診受診者数21,996名と多くの方々にご受診いただきました。また、聴力障害者無料健康診断や介護家族の会会員向けの優遇健診についても、引き続き実施しました。

住友生命総合健診システムでは、高度な健診内容を安全で快適に提供するとともに、受診者の健康管理を支援する各種の取組を行いました。また、その運営を通じて得られた知見については、学会等で積極的に発表を行いました。

助成事業においては、生活習慣病等の先端医療分野の研究を行う6大学・7名の若手研究者に「海外医学研究助成金」を、へき地等で長期にわたり地域医療に多大な貢献をされている6名の医師に「地域医療貢献奨励賞」を贈呈しました。

福祉事業においては、26年目を迎えた「スマセイさわやか介護セミナー」をはじめ、介護セミナー(ケアする人のケアセミナー、遠距離介護セミナー)を開催しました。また、子どもの健全育成を願って、児童館を舞台に子どもと多分野NPOの出会い創出を支援する「子どものための児童館とNPOの協働事業」、次代を担う好奇心旺盛な子どもの育成を支援し、自然環境学習につなげる「子どもエコ俳句大賞」を実施しました。

音楽文化振興事業においては、年間企画は「シューベルトーこころの奥へ」と題し、31歳という若さで没したシューベルトの晩年作品を中心に、様々なジャンルのコンサートを8公演(プレ・レクチャーを含む)開催しました。バッハ・アルヒーフ・ライブツィヒとの提携により7年かけて行う「バッハ・オルガン作品全曲演奏会」も5年目を迎えました。

若年層のクラシック音楽ファンの育成・獲得に向けた取組としてユースシートを継続、またOsaka Shion Wind Orchestra(旧大阪市音楽団)と提携した音楽鑑賞会(8公演)では大阪市の小学生約4,300人がいずみホールを訪れました。障害のある方々とサポートする方々をコンサートに招待する「いずみホール夢コンサート」は14回目を迎えました。

各分野、個別事業の取組内容については次のとおりです。

I 予防医学振興事業

1. 住友生命総合健診システム(人間ドック)

予防医学の観点から、生活習慣病の早期発見および健康管理に資する住友生命総合健診システムは、設備の充実、きめ細かい受診者対応と相まって、引き続き多くの方々に受診いただきました。

平成28年度、総合健診受診者数は21,996名、1日あたり平均86名となりました。初回受診者は3,095名となり、初めての方にも数多く当施設をご利用いただきました。

また、実施9年目を迎えた特定健診・特定保健指導の年間受診者数は、8,354名となりました。

【住友生命総合健診システムの受診状況】

	総合健診			特定健診・特定保健指導			
	受診者(うち初回受診者)	(初回割合)		受診者	当日面談	後日面談	情報提供
男性	11,991 (1,416)	(11.8%)		4,978	1,814	355	2,809
女性	10,005 (1,679)	(16.7%)		3,376	1,268	431	1,677
合計	21,996 (3,095)	(14.0%)		8,354	3,082	786	4,486

住友生命総合健診システムでは、高度な健診内容を安全に快適に提供するため、超音波検査室の増設、心電図ファイリングシステムの更新等、計画的に設備・施設の更新を行い、健診内容の品質向上に継続して取り組みました。新規オプション検査として、経膈超音波検査を新設するなど、検査項目についても一層の充実を図りました。

また、19年目を迎えた聴力障害者無料健康診断を平成29年2月4日に実施、平成21年度から実施している大阪府下の介護家族の会会員への総合健診受診優遇を継続し、健康管理が疎かになりがちな層への健診サービスの提供に努めました。

主な取組事項は次のとおりです。

新規オプション検査の追加	6月にオプション検査として経膈超音波検査を新設しました。年間で、1,820名の方にご受診いただきました。
超音波検査室の増設	超音波検査室を増設することで、腹部超音波検査の待ち時間の解消を図り、受診者サービスの向上に努めました。
心電図ファイリングシステムの更新	緊急対象に設定した心電図の自動解析結果に一致する受診者が医局端末に任意の間隔でリストアップされるようになり、それらの心電図を確認可能になりました。従来の検査者の報告が不要となり検査時間の短縮が実現しました。また、不整脈出現時には、不整脈モードで長時間記録可能となり、検診の精度向上にもつながりました。
特定保健指導対象者への案内の充実	保健指導担当者が、対象者に対して直接保健指導のご案内を行うことで、特定保健指導の実施率の向上に努めました。

バリウム、発泡剤の見直し	平成29年2月から、高濃度低粘性バリウムに切り替え、それに合わせて発泡剤も見直しました。より少量のバリウムでの検査が可能になり、受診者の負担の軽減につながりました。
土曜日の受診枠の拡大	平成28年12月から土曜日の受診者枠を70名から75名に拡大し受診者サービスの向上に努めました。
聴力障害者無料健康診断の実施	平成29年2月4日に聴力障害の方を対象にした無料健康診断を実施しました。公益社団法人大阪聴力障害者協会・公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会等を通じ告知を行い、多数の申込のうち71名(男性35名、女性36名)の方が受診されました。受診時のみならず、事前説明会、結果説明会も手話通訳つきで実施しました。この取組は19回を数え、これまでの延べ受診者数は1,392名にのぼっています。
「介護家族の会」会員への総合健診受診の優遇	親や配偶者の介護に携わる人は、自身の健康管理が疎かになりがちであるため、大阪府下の「介護家族の会」の会員で現に介護に携わっておられる方を対象に受診優遇を継続実施し、37名の方に受診いただきました(受診料10,000円)。

住友生命総合健診システムの運営を通じて得られる知見については、従来から学会等での発表を積極的に行っており、平成28年度については以下のとおりの実績となりました。学会発表のほか、多くの研修会、勉強会等にも積極的に参加し、最新医学情報の習得、健診技術の向上のため、職員の研鑽に注力しました。

大阪府臨床検査技師会 生理検査部門 大阪超音波技術研究会	7月15日	住友病院14階講堂
腸管出血性大腸菌感染症 【発表者】谷口 恵、石原 真菜		
第57回日本人間ドック学会学術大会	7月28日～29日	ホテルブエナビスタ
上部消化管内視鏡検査(以下GIF)レポートシステムの開発、使用経験について 【発表者】堀本葉子 【共同演者】野田直子、寺田博美、長尾顕一、久保満明		
第57回日本人間ドック学会学術大会	7月28日～29日	松本東急REIホテル
特定保健指導における担当者別改善結果の検討 【発表者】鈴木聡子 【共同演者】奥山令子、宮寄智子、野田直子、氏原実香、本田笙子、寺田博美、久保満明、堀本葉子		
第45回日本消化器がん検診学会近畿地方会 超音波研究会 実技ライブデモ2「見えにくい部分の描出法」	8月28日	神戸国際会議場
【講師】長尾顕一		
第26回日本乳癌検診学会学術総会	11月4日～5日	久留米シティプラザ
乳がん健診(MG/US併用)におけるレポートシステムの開発・使用経験について 【発表者】田中和美 【共同演者】川崎幸代、亀岡美幸、宮脇美沙、中山由香、岩尾綾子、寺田博美、岡田優子、長尾顕一、堀本葉子		

TOTO 講演	1月20日	TOTO株式会社関西支社
知っておいていただきたい乳癌に関すること 【講師】堀本葉子		
住友生命 講演	1月23日	住友生命保険相互会社本社
知っておいていただきたい乳癌に関すること 【講師】堀本葉子		
第45回日本総合健診医学会	1月27日～28日	東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート
総合健診におけるNT-proBNPの有用性(第2報)－メタボリック症候群との関連性について－ 【発表者】寺田博美 【共同演者】堀本葉子、岡田優子、長尾顕一、久保満明		

2. 海外医学研究助成

日本国内の大学を卒業し、医学博士の資格を取得後、生活習慣病等の先端医療分野の研究を行うために海外の大学または学術研究機関に留学する若手研究者に対し、一人あたり150万円の研究助成を行いました。平成28年度は6大学、7名への助成を実施しました。

助成対象者は次のとおりです。

氏名	大学	留学先	専攻	研究課題
大久保 直輝	京都府立 医科	アメリカ スクリプス研究所	整形外科	軟骨体内時計の破綻による変形性関節症の発症機序の解明
佐藤 慎哉	名古屋市立	アメリカ ヴァンダービルト大学	実験病態 病理学	癌細胞から分泌されるエクソソームが癌転移に果たす役割の遺伝子学的研究
杉山 知代	東京医科 歯科	アメリカ ハーバード大学 医学部	循環制御 内科学	光干渉断層法を用いた急性冠症候群の病態機序の解明と発症予測
橋本 昌和	広島	カナダ マギル大学	創生医科学	がん微小環境と転移
小豆島 健護	横浜市立	シンガポール デューク大学	循環器・腎臓 内科学	糖尿病性腎症の発症・進展に関わる遺伝子の究明および治療への展開
尾崎 雄一	和歌山県立 医科	アメリカ メドスターワシントン 病院センター	循環器内科	生体吸収型金属ステント植え込み後の金属ストラット吸収過程における血管応答の研究
桐田 雄平	京都府立 医科	アメリカ セントルイス・ワシントン 大学	循環器腎臓 内科	iPS細胞由来腎臓オルガノイドによる腎線維化モデルを用いた慢性腎不全治療法の開発

3. 地域医療貢献奨励賞

自治医科大学の後援を得て、へき地等で長期にわたり地域医療に多大な貢献をされている医師を顕彰する「地域医療貢献奨励賞」は10年目を迎えました。平成28年度、全国の都道府県から推薦のあった医師の中から次の6名を選出し、平成29年2月25日に表彰式を行いました(副賞50万円)。

阿部 吉弘	山形県西置賜郡 小国町立病院・院長
<p>昭和52年日本大学医学部卒。平成3年4月から小国町立病院長として勤務以来、現在まで25年にわたり、山間へき地でかつ全国有数の豪雪地という厳しい生活環境下において、地域住民の安心、安全の砦である町立病院の安定的発展に尽力してきた。また、早くから退院患者の継続看護に取り組み、在宅での生活水準を高めていくことに取り組んだ。さらに、平成5年には在宅介護支援センターを開設し、高齢者の多様な相談に応じる体制を整えた。また、平成17年から毎年10人規模の研修医に対して、地域医療の重要性とその在り方を伝えている。これらの取組は、地域医療が抱えている課題解決に向けた多様な試みの継続であり、その根底には「小国町における地域包括ケアシステムの構築」がある。これに果たしてきた業績は大きいと言える。</p>	
鈴木 孝徳	千葉県南房総市 南房総市立富山国保病院・院長
<p>昭和59年自治医科大学卒。卒後義務年限内の平成2年6月から旧富山町立富山国保病院に派遣されて以来、平成3年3月には同病院院長となり、義務年限終了後も継続して地域医療に貢献している。特に、義務年限内外の自治医科大学卒業医を集め、医師不足であった富山地区の地域医療の確保・推進に寄与した功績は大きい。また、早くからリハビリテーション事業に着目し、自ら千葉県リハビリテーションセンターへ研修に出向くなど、積極的に活動し、平成9年3月に同病院にリハビリテーション科を開設。さらに平成11年4月には整形外科を開設するなど、公立病院として地域のニーズに的確に対応している。また、平成14年度には、町保健福祉センター長も兼務し、地域の高齢化に対応するため、訪問看護ステーションの設置や各種相談業務の充実を図るなど、町の保健福祉に寄与した。そして平成18年3月南房総市誕生に伴い、病院長として、市の保健、医療、福祉の中心的存在として、地域住民の健康保持増進に大きく貢献するとともに、県南の感染症対策にも寄与する等、一貫して地域医療の推進に大きく貢献している。</p>	
金子 吉彌	静岡県静岡市 大川診療所・所長
<p>昭和58年島根医科大学卒。昭和61年5月から離島である佐渡島の佐渡厚生連羽院勤務において、内科医1名、外科医1名のみという極めて人手が少ない中、地域住民のために骨身を惜しまず診療に従事してきた。その後、公設民営の静岡市大川診療所の前任の医師が病に倒れ、当該地域が無医地区になる可能性がある中で、前任医師からの要請と、医師招致に対する地域住民の切実な要望に応えるべく、診療所開設を決断した。そして、新潟県佐渡市から静岡県静岡市への移住に加え、静岡市の中心部から20km以上も離れた山間地域での診療所開設という二重の負担があるにもかかわらず、「山間地医療に骨を埋める覚悟」で平成10年9月1日大川診療所所長に就任した。現在に至るまで、小中学校等6校1園の校医、園医を務め、地域の児童生徒の健康増進に貢献している。また、広範囲の往診にも対応し、自ら車を運転して、地域住民のために労力を惜しむことなく往診を行っており、永きにわたり山間地へき地医療の向上に大きく貢献している。</p>	

中村 達	奈良県桜井市 南奈良総合医療センター・へき地医療支援センター長
<p>昭和54年自治医科大学卒。平成6年度より特別豪雪地域である新潟県国民健康保険大和町立ゆきぐに大和総合病院に10年間勤務した後、平成16年度より奈良県立五條病院でへき地医療支援部長として、また、奈良県へき地医療支援機構専任担当官として、へき地医療行政の推進に大きく貢献している。へき地拠点病院に対する派遣業務の要請、へき地診療所に勤務する医師の派遣調整を行うだけでなく、自らも代診や巡回診療を行うなど、後方支援も積極的に行っており、診療所を設置する市町村からの信頼も厚い。また、自治医科大学卒業医に対し、プライマリケアの研修を実施し、指導医をまとめる立場として、プログラム作成や研修実施に携わっている。常日頃よりカンファレンスを実施し、へき地診療所で勤務する医師の診療支援を行うなど、若手医師の指導にも熱心に取り組んでいる。</p>	
大原 昌樹	香川県仲多度郡 綾川町国民健康保険陶病院・院長
<p>昭和60年自治医科大学卒。昭和62年から香川県三豊総合病院、陶病院を通して約30年、在宅医療を多職種と連携し継続して行っている。三豊総合病院では、へき地巡回診療に継続して取り組み、陶病院では、外来診療、入院診療ともに在宅医療、健康教育、へき地診療所支援などに取り組んできた。いろいろな職種が地域に出かける「移動健康教室」の仕組みをつくり、自らも多くの地域に出向いている。また、香川大学、自治医科大学大学生や初期臨床研修医を地域医療実習として継続して受け入れ、平成24年には、「地域医療スピリットin綾川」を開催し、地域住民を交えたグループワークや懇親会を通して、学生等に地域医療について考える場を作った。一方平成17年から「香川シームレスケア研究会」を立ち上げ、在宅や施設を含めた地域連携を当初から模索、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、地域連携室などと連携し、マニュアル・事例集を含めた「医療介護地域連携パス」を完成させた。また、在宅医療のIT化事業にも取り組んでいる。</p>	
黒木 重三郎	宮崎県東臼杵郡 国民健康保険諸塚診療所・嘱託医、副所長
<p>昭和31年九州大学医学部卒。平成8年に慢性的な医師不足にあえぐ故郷諸塚村に単身で戻ってきた。同年11月着任以来、19年以上にわたり諸塚村の地域医療に率先的に取り組み、患者から厚い信頼を得ており、86才の現在でも現役の勤務医として国民健康保険諸塚診療所に勤務している。諸塚村は過疎化と人口の高齢化が著しい中、いち早く在宅診療を立ち上げ、「待つ医療」から「出かける医療」を心がけ患者やその家族、地域に安心を与えている。また、在宅医療や在宅介護の大切さを理解してもらうために「これからの在宅医療を考える」と題して、諸塚村内16地区の自治公民館で講演を実施する等、患者はもとより地域の住民からも厚い信望を得ている。さらに、平成25年8月1日から診療所内に「地域住民医療相談室」を開設し、個人やその家族などの相談を受けるなど今もなお積極的かつ意欲的に地域医療の発展に取り組んでおり、その姿勢は、県内外の医療を志す者の手本となっている。</p>	

Ⅱ 福祉事業〔実施事業〕

1. 「スミセイさわやか介護セミナー」

国の介護保険制度が始まる9年前、平成3年にスタートした「スミセイさわやか介護セミナー」は、全国各地の地元新聞社との共催、住友生命保険相互会社(開催地支社)の協賛により毎年開催し、好評のうちに回を重ねて26年を迎えました。

行政の変化等、介護を取り巻く状況の変化に則し、適宜セミナー内容の見直しを行い、家庭に要介護者を抱えた家族、介護の仕事に就く人、さらには一般の方々に、広く介護関係の知識・技術を伝える役割を担っています。また、平成25年度からは、健康に老後を迎えるという観点から、「健康」(特にがん予防)もテーマに取り入れました。

セミナーでは、専門家による介護保険制度に関わる情報提供、関心が高まる認知症に関わる予防および介護等に関する医療・介護関係者による講演、健康をテーマにした医療関係者による講演、著名人の体験を踏まえた講演、看護師・介護士等の専門職による移動・食事・排泄・メンタルケア等の実技指導など、多彩な内容を盛り込んだプログラムを提供しました。

平成28年度は全国38都市で開催し、参加者は延べ約9,200名となりました。

2. 「ケアする人のケア」セミナー

一般財団法人たんぼぼの家との共催により、介護する側からの視点で問題提起を行うセミナーを毎年開催しています。

平成28年度は、「震災・放射能によって分断されたコミュニティから、支え合いの文化をどう編みなおすか」をテーマに、平成29年1月22日に郡山市(福島県)で開催しました。平成23年3月11日の東日本大震災から5年が経ち、被災者を支援してきたNPOスタッフも疲弊してくるなど、5年経ったからこそその問題も生じています。とりわけ、介護・助産や子育てなど、だれかを支えることに苦闘しながらも乗り越えてきた人たちのこれまでを振り返り、見えてきた希望を語り合うことを目的としました。研究者の講演とNPO法人、独立行政法人の実体験者からの発表をもとに分科会もあり、110名の参加者がありました。

また、「ケアとソリューションフォーラム」は、平成28年12月12日に神奈川県川崎市にて、「AI(Artificial intelligence 人工知能)」の切り口からケアを再考することを目的として行われました。「さがみロボット産業特区」を推進する神奈川県で、すでにテクノロジーを使っている現場の声と先端技術を学ぶことで、ケアの問題の解決策を探り、76名の参加者がありました。

平成25年度に開設した介護者を支える実践者の優れた取組等を共有化するネットワーク「HELP ON HELP」は、介護に関するシンポジウムなど、団体情報やイベントの告知の掲載依頼が増えており、幅広いケアについての情報サイトとして定着しつつあります。

3. 遠距離介護セミナー

NPO法人パオッコとの共催により、東京(平成28年11月13日)、大阪(平成28年11月20日)で「子のココロ親知らず 親のココロ子知らず 親と向き合う知恵とコツ」をテーマに、遠距離介護セミナーを開催しました。第1部は「なぜ、親は子の言うことをきいてくれないの」と題し、大学院教授による講

演、第2部は「体験者と専門家が語る！お悩み軽減！遠距離介護アドバイストーク」と題し、大学院教授、ケアマネジャー（施設運営者）、NPO法人によるパネルディスカッションを行い、問題解決に向けたヒントを探りました。また、遠距離介護体験者にも登壇いただき、ご自身の体験からのアドバイスをお話いただきました。東京と大阪で合計約200名の方が参加され、多くの質問もあり、充実したセミナーとなりました。

4. 子どものための児童館とNPOの協働事業

NPO法人日本NPOセンターが主催する「子どものための児童館とNPOの協働事業」（一般財団法人児童健全育成推進財団協力）に協賛し、児童館を舞台に子どもと他分野NPOの出会い創出を支援する活動は10年目となりました。16都道府県から応募があり、13都道府県、27児童館・20プログラム（4館合同、5館合同のプログラムあり）に支援しました。また、新たに青森県での開催があり、過去に実施した地域と合わせると、これまでに27都道府県で実施しました。

平成28年度は、「地域マルチステークホルダーで解決する」という視点を持った活動が展開され、児童館とNPOだけでなく、複数の主体が参画したプログラムが行われました。

5. 自然環境学習につなげる子どもエコ俳句大賞

次代を担う好奇心旺盛な子どもの育成を支援するため、自然環境学習につなげる「第11回子どもエコ俳句大賞」を、NPO法人シニア自然大学校と協働して、近畿二府四県の小学生を対象に実施しました。平成28年度は52,045句の応募の中から特選3、準特選3、優秀賞40、優良賞60の合計106句を選出し、平成29年1月29日に受賞者・家族約300名が出席のもと表彰式を行いました。

特選、準特選は次のとおりです。

特選 (坪内稔典賞)	低学年	てれちゃうな まえがみぱつつん なつやすみ 亀井 結奈 草津市 老上小学校1年
	中学年	夏の朝 元気になってね 熊本城 山田 小桜 大阪市中央区 南小学校4年
	高学年	水鉄砲 自分にかける ぼくがいる 黒川 仁盛 枚方市 樟葉小学校6年
準特選	低学年	おちないで せんこう花火 あとすこし 山本 万彩 守山市 玉津小学校2年
	中学年	父の日に ペットボトルで マラカスを 藤野 大己 尼崎市 金楽寺小学校4年
	高学年	屋久島の 夏の歴史を 語る杉 尾形 木乃葉 藤井寺市 四天王寺学園小学校6年

Ⅲ 音楽文化振興事業【実施事業(式典等の貸館を除く)】

平成28年度、いずみホールは年初計画に熊本チャリティ・コンサートを追加し、年間33回の主催公演を開催しました。共催公演、貸館も含む公演数は215公演、年間の入場者総数は109,290名となりました。主催公演の入場者数は平均で580名(平成27年度653名)でした。5月から約40日間の閉館の影響もあり、再開直後の公演のチケット販売が伸びず、昨年度を下回る結果となりました。一方、貸館につきましては、閉館期間があったにも関わらず、年初計画を上回る公演数となりました。アマチュア団体の活動は活発で、土・日の貸館はほぼ予約でいっぱい状態となりました。全体の平均入場者数(貸館(レコーディング、式典等)除く)は、551名(平成27年度617名)と前年を下回りました。

	平成28年度 ()は前年度		オープン以来	
	公演数	入場者数	公演数	入場者数
主催公演	32 (29)	18,585 (18,944)	1,015	602,911
主催公演(人材養成事業)	1 (0)	88 (0)		
共催公演	10 (5)	4,847 (3,002)		
貸館(一般公演)	155(168)	85,770 (102,724)	5,348	2,944,252
貸館(レコーディング、式典等)	17 (11)			
合計	215(213)	109,290(124,670)	6,363	3,547,163

(注)貸館(一般公演)には受託公演を含む。

平成28年度は、「シューベルト -こころの奥へ」と題し、31歳という若さで亡くなったシューベルトの晩年の作品を中心に7公演とプレ・コンサートを開催しました。この企画は、室内楽とピアノそしてシューベルトの代表作である三大歌曲という3つのジャンルで構成しました。室内楽は第1回日本室内楽コンクール第3位受賞の日本を代表する弦楽四重奏団であるロータス・カルテットと、世界を舞台に活躍する3人のソリスト(ファウスト氏、ケラス氏、メルニコフ氏)によるピアノ三重奏の2つの公演。ピアノは若手の有望株である北村朋幹氏と世界の巨匠サー・アンドラーシュ・シフ氏が登場。三大歌曲は「美しき水車屋の娘」をベテランのマーク・パドモア氏。「冬の旅」を気鋭のテノールのユリアン・プレガルディエン氏。最後の名作「白鳥の歌」を日本を代表するリート歌手・三原剛氏が担当。7公演それぞれが、内容の濃い演奏を披露し高い評価を得ました。プレ・コンサートの構成・司会を担当した若手研究者の堀朋平氏に執筆いただいた毎回のプログラム解説も大好評を得ました。

バッハ・アルヒーフ・ライブツィヒとの提携により7年かけて行う「バッハ・オルガン作品全曲演奏会」も5年目を迎えました。そのほか現代音楽を積極的に紹介する「いずみシンフォニエッタ大阪」定期演奏会、定番となっている「いずみホール・オペラ」「ランチタイム・コンサート」、有名アーティストによる「スペシャル・コンサート」「ミュージック・ステージ」「サマーヴァケーションコンサート」など、バラエティに富むラインアップで、多様なクラシック音楽ファンのニーズに応えました。

「いずみシンフォニエッタ大阪」のソロ・コンサートマスターである小栗まち絵氏が、7月のいずみシンフォニエッタ大阪第37回定期演奏会でのソロ演奏に対し、平成28年度大阪文化祭賞最優秀賞を受賞しました。これは小栗氏のみならず、現代作品演奏を中心として活動するオーケストラにとっても、これまでの活動が評価されたことと言えます。

4月14日に発生した熊本県を中心とする地震による被災者支援を目的として、8月30日に「熊本地震チャリティ・コンサート」を追加で開催。出演者をはじめ多くの方のご協力の下、収益金と募金を合わせ130万円強を義援金として、熊本県の自治体に寄付いたしました。

障害のある方々とサポートする方々をご招待する「夢コンサート」は14年目を迎えました。また、若年層ファンの育成・獲得に向けた取組であるユースシートも継続、Osaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)と提携した音楽鑑賞会では大阪市の小学生約4,300人がいずみホールを訪れました。

全主催公演は次の内容です(公演日、標題、演奏者、主な演奏曲名、入場者数を記載)。

【シューベルト -こころの奥へ(プレ企画+全7公演)】

8/25 (木)	シューベルト・プレ企画「シューベルトティアード」 堀 朋平(お話)、鈴木優人(フォルテピアノ)、松井亜希(ソプラノ) 松原 友(テノール)、重岡麻衣(フォルテピアノ)	460
10/9 (日)	I. 弦楽五重奏 ロータス・カルテット、ペーター・ブック(チェロ) シューベルト:弦楽四重奏曲 ニ短調 D810「死と乙女」 シューベルト:弦楽五重奏曲 ハ長調 D956	456
11/23 (水・祝)	II. 三大歌曲「白鳥の歌」 三原 剛(バリトン)、佐々木典子(ソプラノ)、小坂圭太、千葉かほる(ピアノ) シューベルト:糸を紡ぐグレートヒェン D118、水の上で歌う D774 「白鳥の歌」D957 ほか	340
12/16 (金)	III. ピアノ 北村朋幹(ピアノ) ベートーヴェン:6つのバガテル op. 126 シューベルト:ピアノ・ソナタ 第18番 ト長調 D894 ほか	339
1/13 (金)	IV. 三大歌曲「冬の旅」 ユリアン・プレガルディエン(テノール)、鈴木優人(フォルテピアノ) シューベルト:「冬の旅」D911	455
2/18 (土)	V. 三大歌曲「美しき水車屋の娘」 マーク・パドモア(テノール)、ティル・フェルナー(ピアノ) シューベルト:「美しき水車屋の娘」D795	521
2/28 (火)	VI. ピアノ三重奏 イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)、ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ) アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ) シューマン:ピアノ三重奏曲 第3番 ト短調 op. 110 シューベルト:ピアノ三重奏曲 第1番 変ロ長調 D898 ほか	650
3/17 (金)	VII. ピアノ サー・アンドラーシュ・シフ(ピアノ) シューベルト:ピアノ・ソナタ 第18番 ト長調 D894 第20番 イ長調 D959 第21番 変ロ長調 D960	781

【新・音楽の未来への旅シリーズ】

7/16 (土)	いずみシンフォニエッタ大阪 第37回定期演奏会 「東西巨匠たちのアニヴァーサリー」 飯森範親(指揮)、小栗まち絵(ヴァイオリン) 武満 徹:トゥリー・ライン 伊福部昭:土俗的三連画 ジャック・ボディ:ミケランジェロによる瞑想曲 スティーヴ・ライヒ:ダブル・セクステット ほか	419
-------------	---	-----

2/11 (土)	いずみシンフォニエッタ大阪 第38回定期演奏会 「満喫！楽聖ベートーヴェン」 飯森範親(指揮)、若林 颯(ピアノ) 西村 朗:ベートーヴェンの8つの交響曲による小交響曲 ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op. 73 「皇帝」 ほか	578
-------------	--	-----

【バッハ・オルガン作品全曲演奏会】

10/22 (土)	第9回 「鳴り響く永遠」 ミシェル・ブヴァール(パイプオルガン)、礒山 雅(お話) J. S.バッハ:クラヴィーア練習曲集 第3部	609
3/20 (月・祝)	第10回 「罪の深淵、救いの慰め」 ジャン=クロード・ツェンダー(パイプオルガン)、礒山 雅(お話) J. S.バッハ:プレリュードとフーガ ホ短調 BWV533 フーガ ロ短調(コレッリの主題による)BWV579 ほか	629

【いずみホール・オペラ】

9/3 (土)	モーツァルト:オペラ「ドン・ジョヴァンニ」 河原忠之(指揮、プロデュース)、栗國 淳(演出) 黒田 博(ドン・ジョヴァンニ)、石橋栄実(ドンナ・アンナ) 澤畑恵美(ドンナ・エルヴィラ)、西尾岳史(レポレッロ) ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団・合唱団 ほか	574
------------	---	-----

【ランチタイム・コンサート (企画・構成、お話:日下部吉彦)】

6/13 (月)	vol. 96 「木管五重奏」 市川えり子(フルート)、大島弥州夫(オーボエ)、小谷口直子(クラリネット) 村中 宏(ファゴット)、三谷政代(ホルン)、日下部吉彦(企画・構成、お話) ハイドン:ディヴェルティメント 変ロ長調 イベール:3つの小品 ほか	692
8/29 (月)	vol. 97 「弦楽四重奏」 関西弦楽四重奏団、日下部吉彦(企画・構成、お話) ボロディン:弦楽四重奏曲 第2番より 第3楽章「夜想曲」 ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第9番 「ラズモフスキー第3番」	581
12/19 (月)	vol. 98 「オペラ・アリアとクリスマス」 田中 勉(バリトン)、田中友輝子(メゾ・ソプラノ)、源氏万記子(ピアノ) 日下部吉彦(企画・構成、お話) モーツァルト:『フィガロの結婚』より「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」 ほか	763

3/6 (月)	vol. 99 「箏とヴァイオリン」 片岡リサ(箏)、赤松由夏(ヴァイオリン)、井手智佳子(ピアノ) 日下部吉彦(企画・構成、お話) ほか 宮城道雄:春の唄、春の海 モンティ:チャールダーシュ ほか	691
------------	---	-----

【ミュージック・ステージ】

4/9 (土)	青春の吹奏楽PartⅢ 岩村 力(指揮)、Osaka Shion Wind Orchestra ジェイガー:シンフォニア・ノビリッシマ リード:アルメニアン・ダンス 岩井直溥:メインストリートで マニロウ:コパカバーナ ほか	565
4/26 (火)	カール・ハインツ・シュッツ(フルート)、長崎麻里香(ピアノ) シューベルト:「しぼめる花」の主題による序奏と変奏曲 op.160 D802 プロコフィエフ(K-H. シュッツ編曲):「ロメオとジュリエット」組曲	550
8/11 (木・祝)	ロザンと一緒にピアノで世界旅行 イリーナ・メジューエワ(ピアノ)、ロザン(案内役) モーツァルト:「トルコ行進曲」 ショパン:ポロネーズ「英雄」 op. 53 リスト:『パガニーニ大練習曲』よりⅢ.「ラ・カンパネッタ」 ほか	799
10/27 (木)	レ・ヴァン・フランセ(木管五重奏&ピアノ) シュポア:大五重奏曲 ハ短調 op. 52 プーランク:六重奏曲 ほか	721
12/21 (水)	クリスマス・コンサート2016 瀬山智博(指揮)、朝岡 聡(司会)、日本センチュリー交響楽団 ロッシーニ:「チェネレントラ」(シンデレラ)序曲 チャイコフスキー:「くるみ割り人形」組曲 op. 71a ほか	466

【その他公演】

6/10 (金)	ユーリ・バシユメット(指揮)&モスクワ・ソロイスト モーツァルト:アイネ・クライネ・ナハトムジーク チャイコフスキー:弦楽セレナード ハ長調 op. 48 ほか	510
8/30 (火)	熊本地震チャリティ・コンサート 土橋 薫&菊本和昭 ~パイプオルガンとトランペットによる祈りの響き~ J. クラーク:トランペット ヴォランタリー ほか	553
9/9 (金)	MUSIC SUPPLEMENT vol. 10 藤原道山&SINSKE、NAOTO、いちむじん、松谷 卓	595
9/28 (水)	小菅 優 ピアノ・リサイタル 「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ全集」完結記念 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 op. 13「悲愴」 第14番 嬰ハ短調 op. 27-2「月光」 第23番 ヘ短調 op. 57「熱情」	584

10/1 (土)	トン・コープマン(指揮)、アムステルダム・バロック管弦楽団 J. S. バッハ:管弦楽組曲 第3番 ニ長調 BWV1068 ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV1048 ほか	568
10/5 (水)	IZUMI JAZZ NIGHT 小曾根真&ゴンサロ・ルバルカバ(ピアノ)	633
1/8 (日)	ニューイヤー・コンサート2017 ウィーン・リング・アンサンブル J. シュトラウスⅡ世:ワルツ「南国のぼら」、ポルカ「狩り」 ポルカ「雷鳴と電光」、皇帝円舞曲 ほか	732

【普及事業】

8/2 (火)	いずみ子どもカレッジ2016 「ピーターと狼」 中井章徳(指揮)、関西フィルハーモニー管弦楽団	602
9/15 (木)	いずみホール夢コンサート 藤岡幸夫(指揮)、石坂団十郎(チェロ)、関西フィルハーモニー管弦楽団 ハイドン:チェロ協奏曲 第1番 ほか	614
11/10 (木)	西村 朗 音楽講座『幻想への誘い』 西村 朗(お話)、碓山典子(ピアノ)、安藤史子(フルート)、 佐藤一紀(ヴァイオリン) ショパン:幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66 サラサーテ:カルメン幻想曲 op.25 ほか	663

【人材養成事業】

3/19 (日)	オルガン・マスタークラス ジャン＝クロード・ツェンダー(講師)	88
-------------	------------------------------------	----

IV 財団組織運営に関する事項

1. 公益目的支出計画実施報告書等の提出

平成25年4月1日の一般財団法人住友生命福祉文化財団移行後3年を経過し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第127条第3項の規定により、平成27年度の公益目的支出計画実施報告書等を平成28年6月30日に内閣府宛へ提出しました。

平成25年4月1日移行時の公益目的財産額 2,906,799,046円

平成27年度末日の公益目的収支差額 1,033,484,244円

平成27年度末日の公益目的財産残額 1,873,314,802円

2. 評議員会・理事会開催状況

評議員会・理事会の開催実績は以下のとおりです。

【評議員会】

定時 平成28年6月20日

平成27年度事業報告について(報告事項)

平成27年度計算書類承認の件

理事8名選任の件

監事2名選任の件

平成27年度公益目的支出計画実施報告書について(報告事項)

平成28年度事業計画および予算について(報告事項)

臨時 平成29年3月21日 ※定款第19条に規定する決議の省略による。

理事1名選任の件

【理事会】

第1回 平成28年5月31日 ※定款第35条に規定する決議の省略による。

平成27年度計算書類等承認の件

平成27年度公益目的支出計画実施報告書承認の件

平成28年度定時評議員会招集の件

第2回 平成28年6月20日

理事長(代表理事)選定の件

常務理事(業務執行理事)選定の件

理事の担当職務承認の件

理事長代行順位承認の件

使用人職務の委嘱承認の件

平成28年度職務執行状況について(報告事項)

第3回 平成29年3月13日

平成29年度事業計画書及び収支予算書承認の件

理事候補者1名選出の件

「受益者情報管理規程」改定、および「情報リスク管理規程」廃止に関する件

平成29年度大阪音楽大学との取引承認の件

臨時評議員会開催の決定の件

第4回 平成29年3月28日 ※定款第35条に規定する決議の省略による。

常務理事(業務執行理事)選定の件

理事の担当職務承認の件

理事長代行順位承認の件

使用人職務の委嘱承認の件

役員報酬額決定の件

3. 内部統制に関する報告

【内部統制に関する基本方針】(平成25年4月1日制定、平成27年5月29日改定)

- (1) 理事及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- (2) 理事の職務執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- (3) 損失の危険の管理に関する規程
- (4) 理事の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (5) 監事はその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人及びその独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性確保に関する事項
- (6) 理事及び使用人が監事に報告するための体制その他の監事への報告に関する体制及び当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを受けないことを確保するための体制
- (7) 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続きその他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- (8) その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

経営に重大な影響を与える事案や受益者等の利益が著しく阻害される事案等は発生していません。各規程に定める理事会及び監事への報告事項は次頁のとおりです。

規程名	報告内容	平成28年4月～平成29年3月の状況
法令等遵守規程	コンプライアンスプログラムの遂行状況・達成状況	上期・下期にそれぞれ振り返りを実施。遂行状況・達成状況について問題なし。
	法令等遵守状況	法令等遵守状況について問題なし。
内部通報規程	内部通報制度で受け付けた通報・相談内容及び処理内容	内部通報制度で受け付けた通報・相談なし。
反社会的勢力対策規程	反社会的勢力への対応状況	反社会的勢力が関与する事案はなし。
受益者管理指針	相談・苦情等について	経営に重大な影響を与える、又は受益者の利益が著しく阻害されると判断される事案はなし。
受益者情報管理規程	受益者情報の管理状況	受益者情報の管理状況について問題なし。
外部委託管理規程	各委託元部署から集約した外部委託管理の全社状況その他の重要事項	外部委託先管理において問題となる事項はなし。
リスク管理規程	リスクの状況等	経営に重大な影響を与えると判断される事案はなし。

4. 評議員・役員の状況

平成28年度における異動は次のとおりです。(敬称略)

平成28年 6月20日	理事	退任(任期満了)	阿部 裕
	理事	重任	宇高 不可思
	理事	重任	塩野 元三
	理事	重任	田辺 恭久
	理事	重任	中村 孝義
	理事	重任	堀本 葉子
	理事	重任	三野 哲治
	理事	重任	若林 昌憲
	理事	新任	林 紀夫
	監事	重任	上野 博明
	監事	重任	片山 登志子
平成29年 3月31日	理事	辞任	若林 昌憲

評 議 員 名 簿 (敬称略)

(平成29年3月31日現在)

評議員	小栗 まち絵	相愛大学音楽学部 教授・ヴァイオリニスト
評議員	川木 一正	曾根崎法律事務所 弁護士
評議員	楠岡 英雄	独立行政法人 国立病院機構 理事長
評議員	斉藤 弥生	大阪大学大学院人間科学研究科 教授
評議員	佐藤 義雄	住友生命保険相互会社 取締役会長代表執行役
評議員	中嶋 直躬	コクヨ株式会社 社友・元専務取締役
評議員	藤本 宏樹	住友生命保険相互会社 ブランドコミュニケーション部長

役 員 名 簿 (敬称略)

(平成29年3月31日現在)

理事長	田辺 恭久	一般財団法人住友生命福祉文化財団 いずみホール事業局長
常務理事	若林 昌憲	一般財団法人住友生命福祉文化財団 本部事務局長
理事	宇高 不可思	一般財団法人住友病院 副院長
理事	塩野 元三	塩野義製薬株式会社 代表取締役会長
理事	中村 孝義	学校法人大阪音楽大学 理事長
理事	林 紀夫	独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院 病院長
理事	堀本 葉子	一般財団法人住友生命福祉文化財団 住友生命総合健診システム所長
理事	三野 哲治	住友ゴム工業株式会社 相談役
監事	上野 博明	上野博明事務所 公認会計士・税理士
監事	片山 登志子	片山・平泉法律事務所 弁護士

5. その他

附属明細書として、事業報告の内容を補足すべき重要事項はありません。

以上

貸借対照表

平成29年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	988,114,455	941,877,355	46,237,100
未 収 預 収	1,005,283	1,100,481	-95,198
未 貯 収 蔵	164,971,370	166,382,170	-1,410,800
有 価 証 券	16,813,340	18,336,450	-1,523,110
立 前 替 証	150,173,113	139,117,573	11,055,540
未 収 還 払 費 用	0	27,050	-27,050
未 収 還 付 法 人 税 等	5,473,045	4,894,947	578,098
	275,758	1,291,358	-1,015,600
	1,326,826,364	1,273,027,384	53,798,980
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投 資 有 価 証 券	689,700,469	689,801,304	-100,835
普 通 預 金	11,039,350	11,039,350	0
基本財産合計	700,739,819	700,840,654	-100,835
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	131,376,520	118,892,520	12,484,000
設 備 更 新 引 当 資 産	91,984,896	91,984,896	0
特定資産合計	223,361,416	210,877,416	12,484,000
(3) その他固定資産			
建 物 附 属 設 備	34,509,075	38,194,508	-3,685,433
構 築 物	2,039,875	2,097,783	-57,908
什 器 備 品	148,978,830	198,567,941	-49,589,111
ソ フ ト ウ エ ア	15,155,914	32,418,101	-17,262,187
投 資 有 価 証 券	112,761,806	263,524,692	-150,762,886
電 話 加 入 費	432,000	432,000	0
敷 料	4,652,000	4,652,000	0
長 期 前 払 費 用	0	29,829	-29,829
その他固定資産合計	318,529,500	539,916,854	-221,387,354
固定資産合計	1,242,630,735	1,451,634,924	-209,004,189
資産合計	2,569,457,099	2,724,662,308	-155,205,209
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 払 費 金 用	72,851,810	109,187,154	-36,335,344
未 払 預 り 費	9,829,313	10,234,487	-405,174
前 受 引 金	4,069,660	4,180,630	-110,970
賞 与 受 引 当 金	32,383,560	16,871,800	15,511,760
未 払 法 人 税 等	44,533,758	43,655,806	877,952
未 払 消 費 税 等	120,000	120,000	0
未 払 消 費 税 等	16,221,600	7,541,800	8,679,800
流動負債合計	180,009,701	191,791,677	-11,781,976
2. 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	161,588,023	145,383,530	16,204,493
固定負債合計	161,588,023	145,383,530	16,204,493
負債合計	341,597,724	337,175,207	4,422,517
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄 付 金	699,415,139	699,513,759	-98,620
指定正味財産合計	699,415,139	699,513,759	-98,620
(うち基本財産への充当額)	699,415,139	699,513,759	-98,620
2. 一般正味財産	1,528,444,236	1,687,973,342	-159,529,106
(うち基本財産への充当額)	1,324,680	1,326,895	-2,215
(うち特定資産への充当額)	91,984,896	91,984,896	0
正味財産合計	2,227,859,375	2,387,487,101	-159,627,726
負債及び正味財産合計	2,569,457,099	2,724,662,308	-155,205,209

(注)実施事業資産は次のとおりである。

建 物 付 属 設 備	3,560,409
構 築 物	2,039,875
什 器 備 品	9,878,448
ソ フ ト ウ エ ア	2,827,391
	<u>18,306,123</u>

正味財産増減計算書

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基 本 財 産 運 用 益	7,129,949	7,145,621	-15,672
基 本 財 業 受 取 利 息	7,129,949	7,145,621	-15,672
事 業 事 業 業 業 業 業	1,257,693,202	1,272,451,451	-14,758,249
健 診 事 業 業 業 業 業	1,052,820,284	1,058,589,223	-5,768,939
い ず み 事 助 業 業 業	204,872,918	213,862,228	-8,989,310
受 取 取 補 助 業 業 業	33,154,242	35,907,000	-2,752,758
受 取 取 補 助 業 業 業	33,154,242	35,907,000	-2,752,758
受 取 取 寄 付 金 成 等 金	385,000,000	385,000,000	0
受 取 取 寄 付 金 成 等 金	385,000,000	385,000,000	0
雑 受 取 利 益	3,798,216	8,914,178	-5,115,962
雑 受 取 利 益	2,381,494	7,711,694	-5,330,200
雑 受 取 利 益	1,416,722	1,202,484	214,238
経常収益計	1,686,775,609	1,709,418,250	-22,642,641
(2) 経常費用			
事 業 費	1,822,119,589	1,880,892,239	-58,772,650
役 給 員 報 酬	10,272,000	10,896,689	-624,689
臨 時 料 給 雇 手 賃 金	350,196,569	357,768,896	-7,572,327
退 職 利 給 厚 生 費	328,043,725	328,221,229	-177,504
福 利 告 費 宣 伝 費	38,982,950	26,413,688	12,569,262
旅 通 信 信 賃 運 賃 費	86,202,482	90,679,089	-4,476,607
通 信 信 賃 運 賃 費	12,568,541	15,726,948	-3,158,407
減 価 償 却 費	31,548,543	31,188,593	359,950
消 耗 什 耗 器 備 品 費	20,864,902	21,203,513	-338,611
消 耗 什 耗 器 備 品 費	87,146,030	103,680,083	-16,534,053
修 繕 費	570,368	979,403	-409,035
修 繕 費	15,103,738	11,733,893	3,369,845
修 繕 費	144,090,631	143,984,112	106,519
修 繕 費	35,911,928	38,609,458	-2,697,530
修 繕 費	12,945,605	13,441,270	-495,665
修 繕 費	14,893,102	15,210,780	-317,678
修 繕 費	152,866,054	152,959,627	-93,573
修 繕 費	1,296,364	1,438,432	-142,068
修 繕 費	3,270,649	4,260,369	-989,720
修 繕 費	2,329,558	2,819,940	-490,382
修 繕 費	20,674,911	23,170,772	-2,495,861
修 繕 費	1,466,915	1,473,563	-6,648
修 繕 費	13,500,000	19,500,000	-6,000,000
修 繕 費	231,297,307	247,388,289	-16,090,982
修 繕 費	7,841,526	7,871,999	-30,473
修 繕 費	85,863,420	84,687,451	1,175,969
修 繕 費	112,371,771	125,584,153	-13,212,382
修 繕 費	24,185,125	25,602,319	-1,417,194
修 繕 費	4,128,000	3,840,000	288,000
修 繕 費	8,022,361	9,280,535	-1,258,174
修 繕 費	-100,457	440,805	-541,262
修 繕 費	4,307,841	4,944,667	-636,826
修 繕 費	453,310	401,530	51,780
修 繕 費	22,422	21,016	1,406
修 繕 費	16,608	14,137	2,471
修 繕 費	9,632	23,991	-14,359
修 繕 費	20,731	35,127	-14,396
修 繕 費	4,058	3,846	212
修 繕 費	411,780	484,200	-72,420
修 繕 費	54,877	56,487	-1,610
修 繕 費	590,429	591,516	-1,087
修 繕 費	168,063	168,658	-595
修 繕 費	1,200,000	1,253,895	-53,895
修 繕 費	758,783	725,331	33,452
修 繕 費	1,791,504	2,110,579	-319,075
修 繕 費	161,799	161,854	-55
修 繕 費	1,195,422	70,000	1,125,422
修 繕 費	818,581	878,717	-60,136
修 繕 費	149,381	95,428	53,953
経常費用計	1,846,304,714	1,906,494,558	-60,189,844
評価損益等調整前当期経常増減額	-159,529,105	-197,076,308	37,547,203
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-159,529,105	-197,076,308	37,547,203
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固 定 資 産 除 却 損	1	12,724	-12,723
什 器 備 品 除 却 損	1	12,724	-12,723
経常外費用計	1	12,724	-12,723
当期経常外増減額	-1	-12,724	12,723
当期一般正味財産増減額	-159,529,106	-197,089,032	37,559,926
一般正味財産期首残高	1,687,973,342	1,885,062,374	-197,089,032
一般正味財産期末残高	1,528,444,236	1,687,973,342	-159,529,106
II 指定正味財産増減の部			
基 本 財 産 運 用 益	7,013,740	7,029,412	-15,672
基 本 財 業 受 取 利 息	7,013,740	7,029,412	-15,672
一 般 正 味 財 産 振 替 額	-7,112,360	-7,128,032	15,672
当期指定正味財産増減額	-98,620	-98,620	0
指定正味財産期首残高	699,513,759	699,612,379	-98,620
指定正味財産期末残高	699,415,139	699,513,759	-98,620
III 正味財産期末残高	2,227,859,375	2,387,487,101	-159,627,726

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・移動平均法による償却原価法(定額法)によっている。

その他有価証券

時価のあるもの・・・期末日の市場価額等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの・・・移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品・・・個別法による原価法によっている。

(3) 有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法

定額法によっている。(耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準)

(4) 無形固定資産(リース資産を除く)の減価償却の方法

定額法によっている。(耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準)

(5) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・職員の退職給付に備えるため、退職一時金については当事業年度末における自己都合要支給額に相当する金額、退職年金については年金の将来支給予定額を現在価値に割り引いた金額を計上している。

なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理している。

賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(6) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	689,801,304	0	100,835	689,700,469
普通預金	11,039,350	0	0	11,039,350
小計	700,840,654	0	100,835	700,739,819
特定資産				
退職給付引当資産	118,892,520	12,484,000	0	131,376,520
設備更新引当資産	91,984,896	0	0	91,984,896
小計	210,877,416	12,484,000	0	223,361,416
合計	911,718,070	12,484,000	100,835	924,101,235

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
投資有価証券	689,700,469	688,375,789	1,324,680	0
普通預金	11,039,350	11,039,350	0	0
小計	700,739,819	699,415,139	1,324,680	0
特定資産				
退職給付引当資産	131,376,520	0	0	131,376,520
設備更新引当資産	91,984,896	0	91,984,896	0
小計	223,361,416	0	91,984,896	131,376,520
合計	924,101,235	699,415,139	93,309,576	131,376,520

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	643,612,450	609,103,375	34,509,075
構築物	2,797,498	757,623	2,039,875
什器備品	732,232,758	583,253,928	148,978,830
ソフトウェア	152,876,916	137,721,002	15,155,914
合計	1,531,519,622	1,330,835,928	200,683,694

5. 偶発債務

事務所及び診療施設に関して、賃貸借契約に基づく賃貸借契約終了時の原状回復義務を有しているが、その見積額は、360,000,000円である。なお、当財団は建物の取壊しまで賃貸借契約を継続する意向であり、その場合には原状回復を行うことなく建物の取壊しが行われると考えられることから、損失の発生の可能性は低いと判断している。

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	帳簿価額	時 価	評価損益
国 債	952,635,388	990,759,891	38,124,503
合 計	952,635,388	990,759,891	38,124,503

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
寄付金						
基本財産充当寄付金	住友生命保険相互会社	699,513,759	0	98,620	699,415,139	指定正味財産
平成28年度寄付金	住友生命保険相互会社	0	385,000,000	385,000,000	0	一般正味財産
助成金						
平成28年度文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等活性化事業)	文化庁	0	30,754,242	30,754,242	0	一般正味財産
いずみシンフォニエッタ公演助成金	公益財団法人野村財団	0	500,000	500,000	0	一般正味財産
いずみシンフォニエッタ公演助成金	公益財団法人花王芸術・科学財団	0	600,000	600,000	0	一般正味財産
いずみシンフォニエッタ公演助成金	公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団	0	800,000	800,000	0	一般正味財産
いずみホールオペラ「ドン・ジョヴァンニ」公演助成金	公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団	0	500,000	500,000	0	一般正味財産
合 計		699,513,759	418,154,242	418,252,862	699,415,139	

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息振替額 (償却原価法によるものを除く)	7,112,360
合 計	7,112,360

9. 金融商品に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、預金及び債券により資産運用し、デリバティブ取引は行わない方針である。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

有価証券及び投資有価証券は、債券であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

(3) 金融商品のリスクに係る管理体制

① 資金運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資金運用規程に基づき行っている。

② 信用リスクの管理

発行体の状況等を定期的に把握し、理事会に報告している。

③ 市場リスクの管理

関連する市場の動向等を把握し、理事会に報告している。

10. その他

(1) 退職給付関係

① 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金及び退職年金制度を設けている。

② 退職給付債務及びその内訳

(単位:円)

退職給付債務	-187,310,000
会計基準変更時差異の未処理額	25,721,977
退職給付引当金	-161,588,023

③退職給付費用に関する事項 (単位:円)

勤務費用	32,452,000
会計基準変更時差異の費用処理額	6,430,493
退職給付費用	38,882,493

④退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職一時金制度に基づく期末の自己都合要支給額及び退職年金制度に基づく将来支給予定額を現在価値に割り引いた金額を計算の基礎としている。

⑤会計基準変更時差異の処理年数

15年

(2)資産除去債務

事務所及び診療施設に関して、賃貸借契約に基づく賃貸借契約終了時の原状回復義務を有しているが、当財団は建物の取壊しまで賃貸借契約を継続する意向であり、その場合には原状回復を行うことなく建物の取壊しが行われると考えられることから、資産除去債務を計上していない。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細書

財務諸表に対する注記に記載をしており、内容の記載を省略する。

2. 引当金の明細書

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	43,655,806	44,533,758	43,655,806	0	44,533,758
退職給付引当金	145,383,530	38,882,493	22,678,000	0	161,588,023

予算対比正味財産増減計算書(参考資料)

平成28年 4月 1日から平成29年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	7,130,000	7,129,949	51
基本財産受取利息	7,130,000	7,129,949	51
事業収益	1,267,711,000	1,257,693,202	10,017,798
健康診断事業収益	1,067,728,000	1,052,820,284	14,907,716
受取補助業金収益	199,983,000	204,872,918	-4,889,918
受取補助業金収益	31,500,000	33,154,242	-1,654,242
受取補助業金収益	31,500,000	33,154,242	-1,654,242
受取寄付金	385,000,000	385,000,000	0
受取寄付金	385,000,000	385,000,000	0
雑収益	2,681,000	3,798,216	-1,117,216
雑収益	2,381,000	2,381,494	-494
雑収益	300,000	1,416,722	-1,116,722
経常収益計	1,694,022,000	1,686,775,609	7,246,391
(2) 経常費用			
事業費	1,862,963,000	1,822,119,589	40,843,411
役員報酬	10,272,000	10,272,000	0
給職臨時職給	349,980,000	350,196,569	-216,569
退職給付	327,103,000	328,043,725	-940,725
福利厚生費	15,652,000	38,982,950	-23,330,950
旅費交通費	83,852,000	86,202,482	-2,350,482
通信費	14,470,000	12,568,541	1,901,459
消耗什器備品	33,415,000	31,548,543	1,866,457
消耗什器備品	21,213,000	20,864,902	348,098
消耗什器備品	94,367,000	87,146,030	7,220,970
消耗什器備品	1,719,000	570,368	1,148,632
消耗什器備品	13,201,000	15,103,738	-1,902,738
消耗什器備品	147,069,000	144,090,631	2,978,369
消耗什器備品	40,503,000	35,911,928	4,591,072
印刷費	19,549,000	12,945,605	6,603,395
印刷費	14,839,000	14,893,102	-54,102
印刷費	148,738,000	152,866,054	-4,128,054
賞保料	1,569,000	1,296,364	272,636
賞保料	3,450,000	3,270,649	179,351
会議費	2,279,000	2,329,558	-50,558
会議費	20,504,000	20,674,911	-170,911
会議費	1,964,000	1,466,915	497,085
会議費	27,700,000	13,500,000	14,200,000
会議費	251,452,000	231,297,307	20,154,693
会議費	8,217,000	7,841,526	375,474
会議費	85,865,000	85,863,420	1,580
会議費	124,022,000	112,371,771	11,650,229
会議費	24,245,000	24,185,125	59,875
会議費	5,328,000	4,128,000	1,200,000
会議費	7,139,000	8,022,361	-883,361
会議費	-96,000	-100,457	4,457
会議費	4,195,000	4,307,841	-112,841
会議費	759,000	453,310	305,690
会議費	23,000	22,422	578
会議費	18,000	16,608	1,392
会議費	11,000	9,632	1,368
会議費	42,000	20,731	21,269
会議費	7,000	4,058	2,942
会議費	401,000	411,780	-10,780
会議費	56,000	54,877	1,123
会議費	591,000	590,429	571
会議費	2,000	168,063	-166,063
会議費	1,100,000	1,200,000	-100,000
会議費	1,106,000	758,783	347,217
会議費	2,937,000	1,791,504	1,145,496
会議費	1,000	161,799	-160,799
会議費	0	1,195,422	-1,195,422
会議費	603,000	818,581	-215,581
会議費	23,000	149,381	-126,381
経常費用計	1,887,208,000	1,846,304,714	40,903,286
評価損益等調整前当期経常増減額	-193,186,000	-159,529,105	-33,656,895
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-193,186,000	-159,529,105	-33,656,895
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	0	1	-1
固定資産除却損	0	1	-1
経常外費用計	0	1	-1
当期経常外増減額	0	-1	1
当期一般正味財産増減額	-193,186,000	-159,529,106	-33,656,894
一般正味財産期首残高	1,683,610,000	1,687,973,342	-4,363,342
一般正味財産期末残高	1,490,424,000	1,528,444,236	-38,020,236
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用利益	7,014,000	7,013,740	260
基本財産受取利息	7,014,000	7,013,740	260
一般正味財産への振替額	-7,112,000	-7,112,360	360
当期指定正味財産増減額	-98,000	-98,620	620
指定正味財産期首残高	699,516,000	699,513,759	2,241
指定正味財産期末残高	699,418,000	699,415,139	2,861
III 正味財産期末残高	2,189,842,000	2,227,859,375	-38,017,375

設備投資額

予算額: 43,344,000 決算額: 16,568,000

監 査 報 告

平成 29 年 5 月 22 日

一般財団法人住友生命福祉文化財団

理事長 田辺 恭久 殿

監事 上野 博明 ㊞

監事 片山 登志子 ㊞

私たち監事は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を読覧し、法人事業所において業務及び財産の状況並びに公益目的支出計画の実施の状況を調査いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行いました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上